

テーマ

子どもを暴力から守る

適用
分野

子ども虐待の予防、危機介入、
治療の実践、子育て支援



研究
名称

子ども虐待の理解と防止対策

氏名
所属

森 茂起 教授
文学部 人間科学科

内容

●特徴

近年、深刻な社会問題となっている子ども虐待について研究する。虐待を予防するにはどうしたらよいか、実際に虐待に遭ってしまった場合に行う子どもの心のケアや、家族関係の修復の方法を考える。

虐待予防の一環として、行政による少子化対策とも連動して、子育て支援体制の構築、充実をめざす。

●研究内容

家庭や学校などの閉鎖的な人間関係の中で、強者が弱者に加える暴力が、社会問題となっている。特に、乳幼児期や学童期の子どもへの虐待が、人の精神に重大な影響を及ぼすことがわかっており、防止対策が重ねられてきた。「児童虐待の防止等に関する法律」(2000)の成立によって対策が進んだものの、まだ解決すべき課題は多い。

子ども虐待が発生するには、多様な要因が関わっている。親自身が幼少時に受けた虐待が次の世代の虐待のリスクを高める「世代間連鎖」はその1要因である。暴力の連鎖を断ち、過去からの負の遺産を将来に残さないことが、虐待予防の重要なポイント

となる。

また、家庭環境や経済的要因、あるいは子どもの育てにくさなどによって、子育てが困難な状況に陥り、その結果、虐待が起こるケースもある。子育てに悩む親への支援など、行政によるきめ細かな環境整備が求められている。虐待を受けた子どもの受け皿としての児童養護施設でのケアの充実や、有効な子育て支援体制の構築など、臨床心理学の分野から研究・提言をしていく。

キーワード

臨床心理学、児童虐待、児童養護施設、PTSD（心的外傷後ストレス障害）、トラウマ、心のケア、子育て支援、少子化、親子関係、家族、家庭、育児、福祉

連携方法

■ 講演 ■ 研修 ■ 研究相談 ■ 学術調査 ■ コメント ■ 共同研究